

なくそう戸籍と婚外子差別・交流会通信「Voice」 「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」 優秀賞を受賞！

「戦争報道の反省から反戦を訴え、一人ひとりが地域に根差して情報発信することの重要性を訴え続けたむのたけじさんの精神を引き継ぐ活動を顕彰するため」に創設された賞です。

この第5回（2023年）むのたけじ賞「優秀賞」を、交流会通信「Voice」が受賞しました。婚外子差別の撤廃

と女性が非婚で子どもを産んでも差別されない社会を求めて1988年より活動し、通信「Voice」を発行し続

けてきたことが評価されたことは、とっても嬉しく、今後の励みになります。

策 ※応募した47作品から、共同代表（落合恵子さん、鎌田慧さん、佐高信さん、永田浩三さん、武野大さん）と事務局スタッフにより、「大賞」1作品、「優秀賞」5作品、特別賞1作品が決定されました。

〈以下は、「優秀賞」受賞の選考理由です〉

……わたしたちが「歴史」と呼んでいるほとんどすべては、語源それ自体は違うと言いますが、HISTORY、まさに HIS STORY、彼の歴史、男の歴史そのものです。かつて、そして無念なことに今もなお。

その HISRORY の下で、人口の半分である女たちの声はあまりにも長い間、消されてきました。その中でも、今もって受け継がれている家制度の外側に身を置いてきた子や女の人生は、

耐えず片隅に追いやられてきました。子は「ててなしこ」「私生児」とよばれ、その子は母は「不道德で

恥知らずな女」と

地域社会ではつまはじきにされてきました。そのために、自分の出生を肯定できない子どもがどれほどいたことでしょう。

当会は1988年に誕生し、今も残存する家制度へ、果敢な異議申し立てをし続けている会であり、その交流誌である本誌が、声をあげることのためらわざるを得ない人々も含め、どれほど多くの婚外子やその母である女性を

長年にわたってサポートしてきたことか。多様性と言いながら、まだまだのフィールドに 光を当てる活動

を地道に

続けてきた当会に、心よりの敬意を！

世田谷区役所婚外子差別事件が 5 年半を要して解決できたことなど、いくつかの成果も 得られました。昨年に引き続いての応募になりますが、第 5 回対象期間にあたる交流会通信「Voice」にはそのと

きの想いや苦勞、そして喜びが描かれているために、優秀賞となりました。